

第4回諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方検討会における主な発言

H31. 2. 14 諏訪合同庁舎講堂

■環境学習、情報発信の取組

(沖野委員)

- ・各地域で様々な取組が行われている。新しく取り組む必要がないくらい行われているが、全体として統一性がなく、そういったものを中心になって運営・企画するセンター的役割が現在は欠けているのではないか。
- ・情報を発信するためには、情報の収集が必要であり、その欠けたところをセンターで担ったらどうか。各地域や博物館などの情報収集は簡単ではなく、専門の職員が必要と思われる。情報が1か所に集れば地域の方も分かりやすいし参加しやすくなる。例えば情報管理室を設置し、足りない資料や情報の分析を行う。情報の収集・発信は専門性が求められる。市民が参加したり調べたりする専門の市民研究室を設置し、専門の職員が対応できるようにする。
- ・研究する職員が広報の両方を行うのは難しい。広報専門の人員配置が必要と思われる。

(澤本委員)

- ・水産試験場でもいろんなところに出向いているがスタッフが不足しており重荷になっている。統括的、専門的に担当、コーディネートする職員（部署）が必要と考える。また、研究員は広報や説明が不得意な部分があるので、センターではそういったところを補えるような機能があるとよい。
- ・諏訪地域の方だけでなく、諏訪エリア以外の方が諏訪に来た時に、諏訪の環境や暮らしぶりを知ることができる場。
- ・天竜川総合学習会館では、ボランティアスタッフによる支援があるとのことだが、そういった方をコーディネートする人が必要ではないか。

(山崎委員)

- ・天竜川総合学習会館は様々な取組を行っているが、課題等はあるか。

(井上委員)

- ・15年前の開館当初は講座への参加者は少なかったが、講座名や発行紙、人が人を呼ぶような工夫などにより参加者が増加してきた。難しい講座名だと子どもは来ない。ネーミングは重要。

(小口主幹（百瀬委員代理）)

- ・各地域でいろいろな企画を行っている。それらを情報共有して、企画につなげるコーディネートする機能があると市町村の立場でもやり易くなる。
- ・野鳥の観察会なども行っているが、センターのような拠点があると企画しやすくなる。
- ・3月3日に岡谷東高校の生徒が企画したスポーツごみ拾いが開催される。企画は立てられるが周知や人集めに苦戦している。そういった子どもたちの活動をサポートしてもらえるとよい。

(樫尾課長（花岡委員代理）)

- ・諏訪市博物館の企画展など、諏訪市以外の方になかなか情報発信ができていない。センターで各地域の情報を収集して発信してもらえるとよい。博物館の展示物には動くものがないが、子どもは動くものがあつたほうが興味を持ってもらえる。

(増澤委員)

- ・下諏訪町のクリーン祭りに合わせ、小学生は当日の参加だけでなく事前・事後学習も行っている。学校の授業的なもの以外でも子どもたちが自主的に参加・活動できる場があるとよい。
- ・また、子どもたちが全国川ごみサミットで学習成果を発表した。そのようなものを発表できる場や人に評価してもらえることは大切と思われる。
- ・センターで指導・助言いただけるとよい。

(小口委員)

- ・諏訪市在住であるが、諏訪市以外の活動を知る機会がなかなかない。市町村をまたいだ活動や広報が必要ではないか。

(宮原委員)

- ・大人以外の視点が必要。高校生が自主的に環境保全等のクラブ活動を行っており、そういったもののサポートができればよいのではないか。昨年の全国総文祭では、諏訪湖のフィールドワーク的な活動もしていた。
- ・修学旅行の視察先として、直接他県から電話がくる。諏訪湖は下水道整備等により水質が改善してきたという誇れる歴史があるので、そういったものが発信できればよい。
- ・諏訪湖状況が目に見えるように、ライブ映像などによる情報発信の場。

(傳田委員)

- ・子どもは博物館等では展示物に興味を持つ。見てから書物を読むと理解が深まる。また、年齢層に応じた取組ができるとよい。

(酒井委員)

- ・ビジョンを策定する中で、諏訪湖を学ぶ機会がないという話を聞き、振興局が中心となり学習ツアーを開催している。市町村、教育委員会、学校、先生の力が必要であり、一緒になって連携しながら取り組めるとよい。そういったもののコーディネーター。

(齊藤委員)

- ・科学は難しい側面がある。直接住民の方と接するサイエンスカフェや県政出前講座は重要な取組。マンパワーが必要。

■連携・共同実施ほか

(沖野委員)

- ・長野県は公民館活動が活発である。学校や博物館よりも住民と結びついており、公民館の活動に諏訪湖も組み入れネットワーク的なものも作ったらどうか。
- ・諏訪教育会館に学校の先生が集まっているいろんな研究をしている。資料もある。そういったところと連携すると先生や高校生の力も借りられる。
- ・大学生のパワーは大きい。諏訪東京理科大や信大との連携。

(市川オブザーバー)

- ・学生や大学の知識を社会にどう活用しつなげていくかは重要なテーマ。地域にでかけ一緒に課題解決をしたいと考えている。どんどん呼びかけてもらいたい。

(樫尾課長（花岡委員代理）)

- ・諏訪市内の公民館では、諏訪湖関係で2講座ある。来月にはわかさぎ釣り体験を行う。そのようなものが市町村をまたいで広げられればよい。
- ・小学校4年生を対象に、ごみ問題を考えるため処理施設を見学している。その行程としてセンターを見学してはどうか。大型バスで移動するので、バスが駐車できるところがよい。

(小口主幹（百瀬委員代理）)

- ・市のこどもエコクラブの講師が高齢化してきている。各地域の専門性のある人をネットワーク化し、講座やイベントを共同実施したり、互いに派遣しあえるようにしたらどうか。

(山崎委員)

- ・センターから企業・団体に対して「このような取組を一緒にしませんか」のように、待っているのではなく、積極的な働きかけ、コーディネートしていく取組も必要ではないか。

(宮原委員)

- ・先日、諏訪湖の環境改善に関する県の会議に参加したが、学生も聞いたり、情報交換できるとよい。

(市川オブザーバー)

- ・調査研究や展示はどちらかというと受け身のコンテンツ。自ら打って出る企画・取組も必要。研究職では厳しい。さきほどコーディネーターの話が出たが、これもどちらかというと受け身のもの。プロデューサーのように積極的に動き働きかける人が必要ではないか。
- ・諏訪だけでなく全県に取組等を広げるモデルケースとなればよい。例えば住民展開など。また、環境だけでなく治水や漁業等の経済活動の学習ができてよいのではないか。

(沖野委員)

- ・センターには舟が必要。立地検討の際には船着き場も考慮を。
- ・以前から今井委員が「調査と研究は違う」と指摘しているが、今回の資料でも「調査研究」となっている。「調査研究」なのか、「調査と研究」なのか、「研究のための調査」など色々ある。その辺りしっかり理解して表記したほうがよい。

〈御意見に対する事務局の考え〉

※上記意見等については、今後の検討に当たり参考とさせていただきます。